

六字城

ROKUJIJO

2023/9/1

No.706

大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝



第二十二世現如上人御染筆『六字城』の掛軸



「非核・非戦」を

阿弥陀さまの悲願として

武宮 信勝

お盆が過ぎ去り、少しは涼しくなるのかなあとの思いも空しく、残暑は今なお厳しいままです。しかしながら別院境内にトンボが飛び交っている姿を見て、額に流れる汗が一瞬冷水に感じられ、ほのかな初秋を味わった。

それにしても台風6号・7号は、お盆の時期、沖縄・九州・東海・近畿各地に多くの災害の爪痕をのこし、死傷者をはじめ今もなお復旧に汗を流しておられる方々の御心労にお見舞い申しあげます。87年前、広島へ、そして長崎への原爆投下。8月9日は台風の影響で平和記念式典も縮小を余儀なくされたことでした。午前11時02分、別院本堂で静かに合掌させていただきつつ何気なく「長崎の鐘」を口ずさんでいました。

こよなく晴れた 青空を
悲しと思う せつなさよ
うねりの波の 人の世に
はかなく生きる 野の花よ
なぐさめ はげまし
長崎の ああ 長崎の鐘が鳴る

召されて妻は 天国へ
別れてひとり 旅立ちぬ
かたみに残る ロザリオの
鎖に白き わが涙
なぐさめ はげまし
長崎の ああ 長崎の鐘が鳴る

サトウハチロー作詞、古関裕而作曲の世に有名な歌である。その基になったのは長崎医科大学、放射線科の永井隆博士の綴った『長崎の鐘』であることはご承知のことでありましょう。爆心地にほど近い医大病院に先生自らも被爆を負いつつも、次から次へと運ばれてくる被爆患者の治療に昼夜を問わず専念されたのでしよう。我が家に残っている妻の状態が気にかかり帰ってみると、瓦礫化した台所付近に黒く焼きたれたかたまりと、奥様が身に着けていたロザリオがあり、自責の念に深い慙愧を懐かれペンを走らせ一冊の本が出来あがったと聞きました。その後6年間亡くなるまで原爆の放射能による白血病を患い病床の身にあつて原爆の悲劇を書き続けられたのである。

私は先生の残された言葉「到底に大地あり」を今も大事に憶念しています。宗教こそは異なるとはいえ、信心に目覚める機縁は何等変わることはないと思うからです。末法五濁の世はロシアのウクライナ侵攻に拍車をかけ、世界中が核への恐れをいだき、不安が深まるばかりである。『大無量寿経』の「国豊民安・兵戈無用」（国が豊かに民が安心して暮らしていくためには、兵隊も武器も必要がない）の阿弥陀仏の仰せに従う時が到来していることを、また親鸞さまが「世の中安穏なれ、仏教ひろまれ」と叫ばれたことを標を正して聞きひらき、立ち上がって「非核・非戦」を願って生きていきたいと思います。

法要・行事予定

9月		10月	
12日	闍如上人御遠夜・常永代経 (14時)	2日	真如上人御祥月御命日 (8時)
13日	闍如上人御命日 兼日中 (8時)	～報恩講～	
16日	天満別院合唱団「みのり」 (14時)	3日	遠夜 (13時30分)
24日	秋季彼岸会 並 総永代経法要 兼 墓地納骨(物故者) 追弔法要 (13時30分) 宮部 渡師 (第15組 西稱寺) 「善悪のふたつを総じて もって存知せざるなり」	4日	日中 (10時) 結願遠夜 (13時30分)
27日	宗祖聖人御遠夜 (14時)	5日	教如上人御祥月御命日 報徳会(音楽法要) (10時30分) 結願日中 (13時30分)
28日	宗祖聖人御命日 兼日中 (8時) 法話 輪番 武宮 信勝 報恩講～お待ち受け奉仕～ (9時)	12日	闍如上人御遠夜・常永代経 (14時)
30日	合唱団「みのり」リハーサル (14時)	13日	闍如上人御命日 兼日中 (8時)
おあさじにお参りしましょう!! 毎朝7:45分～8:30分頃まで 土、日は職員による感話があります		14日	巧如上人御祥月御命日 (8時)
		27日	宗祖聖人御遠夜 (14時)
		28日	宗祖聖人御命日 兼日中 (8時) 法話 輪番 武宮 信勝
		※報恩講の詳細は別紙ご案内の通りです	

告知

報恩講お待ち受け奉仕のお願い

左記の通り、来る10月の報恩講に向けて、ご門徒の皆様とともに、おみがき・各部屋の清掃のお手伝いを、お願ひしたいと存じます。

ご参加をお待ちしております。
※昼食を用意していません

日時 9月28日(木) 9時から
場所 天満別院 本堂
服装 汚れても構わない服

今月の伝道掲示板

絶望と希望は
命の振り子です
—加藤登紀子—

「不要不急の外出は控えてください」という言葉は、コロナが蔓延していた時によく耳にしました。今は、熱中症にならない予防策としてよく耳にします。人が前に進むには、気持ち満ちたされることも大切です。何が不要で何が不要なのか。不要不急は誰かにとっての必要不急かもしれないことを私なりに、ゆっくりと考えていきたいと思いました。

編集後記

寺町という歴史ある地域に
根ざした老舗葬儀社

(株) 天満花重

〒530-0041
大阪市北区天神橋 3-4-6
電話 (06)-6351-3875
FAX (06)-6351-6260

～ご縁を大切に～

日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下る
TEL075-351-6325 FAX075-341-5255
https://www.kyo-kusaka.jp

秋季彼岸会 並 総永代経法要

兼・墓地納骨(物故者)追弔法要

日時

9月24日(日)午後1時30分

講題

「善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり」

法話

宮部 渡師 (第15組西稱寺住職)

ご講師からのメッセージ

この言葉は、『歎異抄』後序に出てきます。直訳しますと、「私は、善い、悪いのことはまったく知らない」ということです。この言葉に出会ったとき、親鸞聖人もあろうお方がと、落胆したのを覚えております。例えば、会社の上司が、部下である私にこんなことを言ったなら、ついていこうとは思いません。いったい、この言葉の本当の意味することは？

無垢な赤ちゃんの顔を見てみると仏さまのようだ、と手を合わせたくくなります。それに比べて、毎朝鏡に映る自分の顔には嫌気がさします。その赤子もやがて、目が見えるようになり、離乳食を食べるころには、「自我」が芽生え、親からスプーンを奪おうとします。これが人間の行う初めての争いかもしれません。この日から私たちは自我を離すどころか育て続けてきたのです。宮城顕先生の残してくださった言葉に、「私たちの人生の争いは、善と善との争いだ」というものがあります。私の身近なところの争いも、今もやむことなき世界的な戦争も、自我が常に自分を正義の側に立たせてしまっていることが因となっているのでしよう。お彼岸に皆様と「如来の御心」をたずねてまいりたいと思います。

Q&A

蠟燭にはどんな種類がありますか？
またなぜ朱蠟燭を使うのですか？



答え

我々真宗大谷派で使用する蠟燭は、次の四種類のものがあります。
白蠟燭 (平日一般に使用します)
朱蠟燭 (年忌法要・報恩講等に使用します)
金蠟燭 (落慶法要・佛前結婚式等の慶事法要に使用します)
銀蠟燭 (葬儀・中陰法要に使用します)
以上の四種類で、それぞれの法要により使い分けをしています。
蠟燭の形ですが、主にイカリ型と棒型のものがあり、真宗大谷派ではイカリ型のものを使用します。

なぜ朱蠟燭を使うかという事ですが、お念佛の教えを私たちに示してくださった親鸞聖人のご遺徳に感謝するという意味合いをこめて、聖人の祥月命日である報恩講に朱蠟燭を使用するようになりました。また、真宗での蠟燭は阿弥陀様の智慧(光明)のはたらきを象徴していると言われます。

故人の命日をご縁として、親戚やご縁のあった方々がお内仏に集い、阿弥陀様の前で、その智慧のはたらきに出会い、お念佛の教えを聞法することがとても喜ばしい事であるので、おめでたい色の朱蠟燭を使用するのです。朱蠟燭を用いるのは、法事や仏事は決して単なる弔事ではなく、阿弥陀様の光に出会い、お念仏の信心を賜るという貴重な場に居合わせていただいている喜びを表しているのです。

(第7組慈雲寺江村勝友)

報告

仏前結婚式

去る8月6日(日)、天満別院において吉田 太一様、織田 花実様の仏前結婚式を執り行いました。ご結婚おめでとうございます。



別院では仏前結婚式を随時受付けております。

あなたのお子様、もしくはお孫様で結婚式を考えておられる方には是非おすすりください。ご相談、下見等のお問い合わせは寺務所までご連絡ください。

孟蘭盆会 勤修

去る8月13日(日)孟蘭盆会が勤まりました。御講師には、20組施福寺住職 由上 義孝師をお迎えし、講題「如来」ともいうすは、諸仏をもうすなり」についてお話いただきました。



第20組施福寺住職 由上 義孝師